

主催者挨拶

碓井 栄喜

「アルミニウムと健康」連絡協議会



本日は第4回「アルミニウムと健康フォーラム」に参加いただきまして、ありがとうございます。私たち「アルミニウムと健康」連絡協議会では、できる限り公平な立場から科学的な事実をお伝えしたいと考えておまして、ホームページ、あるいはニュースレター等を通じて活動し、いわば活動のメインイベントとしまして、2年に一度の割合で国際的なフォーラムを開催してまいりました。

これまでのフォーラムを簡単におさらいいたしますと、第1回では、アルツハイマー病におけるアルミニウムの危険因子説と否定説、その双方の立場から日本およびアメリカの研究者をお招きして、疫学的なデータあるいは実験データを通じてご講演、ご議論いただきました。第2回では、イギリス、アメリカ、日本から講師の方々をお招きして、私たちの日常生活におけるアルミニウムの摂取、吸収、代謝に関してご講演いただきました。その結果、人体はアルミニウムの摂取に関して排除機構を備えているということと、もう一つ、第1回で話題になりました疫学調査について、その後の研究でアルミニウムが危険因子であるという根拠はないことをお伝えいただきました。第3回では、アルツハイマー病の診断法、予防法、そして治療法について、カナダ、アメリカ、日本から講師の方々をお招きしてご講演いただきました。

今日の第4回では、日本から3名の講師の方々をお招きしておまして、第3回に引き続き、非常に皆様の関心の高いアルツハイマー病の予防法、治療法について、これは老化や長寿ということと非常に密接に関係しておきますので、老化と寿命への遺伝的な因子、あるいはその環境要因の影響も含めてご講演いただきます。

さて、ここでアルミニウムという物質について簡単に考えてみますと、私たちの星、地球の地殻の中では、酸素、ケイ素に次いで3番目に多く含まれております。土の中、水の中、あるいは空気中に粉塵という形で含まれていまして、その結果として、私たちが毎日食べている食物、あるいは海藻等に含まれています。また、医薬品などにも含まれています。そのように考えていきますと、私たち人類というのは、ほかの生物も一緒だと思いますが、地球上のアルミニウムその他のいろいろな物質、元素とうまくつきあいながら進化してきたのでは

ないかと思われます。そういうことも含めまして、今後ともできる限り医学界の情報を中心にして皆様にお伝えしてまいりたいと考えております。

それでは、本日のフォーラムの司会をしていただきます田平先生をご紹介させていただきます。田平先生は、九州大学医学部を卒業されまして、同じく九州大学で医学博士号を取得されています。その後、アメリカの国立研究所であるNIHの研究機関に留学されまして、帰国後は国立精神・神経センターの第6部の部長を経て、現在は国立長寿医療センター研究所の所長をされています。この間に日本痴呆学会の会長、あるいは日本神経免疫学会の会長を歴任されておまして、ご専門は神経内科学、多発性硬化症、アルツハイマー病および神経免疫相関ということで、関連の書物も出版されています。

それでは、田平先生よりよろしくお願いいたします。